# 令和３年度　終了式式辞（R4.3.25）

グランドの土が見えてきました。例年以上に多い積雪でしたが、ここにも春がやってきました。

まずは、先日の卒業式の準備ありがとうございました。皆さんの先輩は立派に卒業していきました。皆さんの卒業生への温かい心遣いを感じることができ、とても嬉しく思いました。また、高校入試の準備もありがとうございました。昨日は、入学予定者説明会に元気に皆さんの後輩となる生徒らが来てくれました。

皆さんのおかげです。

さて、本日は、皆さんにとって七戸高校の令和３年度の最後の日です。

私事になりますが、今年度ここに赴任しましたが、赴任して間もなくの４月２４日に母を亡くしました。亡くなる前日２３日は金曜日でした。それまでコロナで見舞うことはできなかったのですがいよいよダメそうだということで、昼休み時間を利用して、七戸病院に行き病室に通してもらいました。そこで、母に隠し持って行ったサイダーを小さいお皿に移して、本当に舌を濡らすだけですが飲ませてやったのが意識のある母との最後でした。会話はもちろんできる状態ではありませんでした。

それからしばらくして、ある教育書を読んでいたら、「奥さんの足をさすったことがありますか？と問われた」というお話がありました。その意図を簡単に言うと、足をさすってあげることでその人に対する愛情やその人の歩いてきた人生を感じることができるというような話です。

はっと思いました。自分の子どもの足は何度もさすったことがありましたが、自分の母の足をさすったことがなかったのです。もう、取り戻すことができない最後の日のことです。

その時に思い出した詩があります。2001 年９．１１同時多発テロのとき、そして、2011 年 3．11 東日本大震災の時もこの詩が多くの人々に読まれ、本も出版されました。紹介します。

「最後だとわかっていたなら」

作・ノーマ・コーネット・マレック　／　訳・佐川　睦

あなたが眠りにつくのを見るのが
最後だとわかっていたら
わたしは　もっとちゃんとカバーをかけて
神様にその魂を守ってくださるように
祈っただろう

あなたがドアを出て行くのを見るのが
最後だとわかっていたら
わたしは　あなたを抱きしめて　キスをして
そしてまたもう一度呼び寄せて
抱きしめただろう

あなたが喜びに満ちた声をあげるのを聞くのが
最後だとわかっていたら
わたしは　その一部始終をビデオにとって
毎日繰り返し見ただろう

あなたは言わなくても
分かってくれていたかもしれないけれど
最後だとわかっていたら
一言だけでもいい・・・「あなたを愛してる」と
わたしは　伝えただろう

たしかにいつも明日はやってくる
でももしそれがわたしの勘違いで
今日で全てが終わるのだとしたら、
わたしは　今日
どんなにあなたを愛しているか　伝えたい

そして　わたしたちは　忘れないようにしたい

若い人にも　年老いた人にも
明日は誰にも約束されていないのだということを
愛する人を抱きしめられるのは
今日が最後になるかもしれないことを

明日が来るのを待っているなら
今日でもいいはず
もし明日が来ないとしたら
あなたは今日を後悔するだろうから

微笑みや　抱擁や　キスをするための
ほんのちょっとの時間を
どうして惜しんだのかと
忙しさを理由に
その人の最後の願いとなってしまったことを
どうして　してあげられなかったのかと

だから　今日
あなたの大切な人たちを
しっかりと抱きしめよう
そして　その人を愛していること
いつでも
いつまでも　大切な存在だということを
そっと伝えよう

「ごめんね」や「許してね」や
「ありがとう」や「気にしないで」を
伝える時を持とう　そうすれば
もし明日が来ないとしても
あなたは今日を後悔しないだろうから

引用：『最後だとわかっていたなら』
作 / ノーマ・コーネット・マレック
訳 / 佐川睦　出版社 / サンクチュアリ出版

毎日が最後の日だと思っていたら苦しくなります。

でも、時には、最後の日だったら、どうしただろう、こんな言葉を投げかけたろうか？などと考えてみてください。

今、世界では理不尽に多くの人々が、人間の作り出した兵器によって殺されています。子供を亡くした母親の泣き叫ぶ声は、皆さんにも聞こえているでしょう。私たちが第二次世界大戦後、大切にしてきた自由と民主主義が危機に瀕しています。私がこうやって社会、政治・経済を高校で教えたいと思ったことの一つが、まさに、このこと。当時はベトナム戦争に対する疑問がありました。

戦争の背景に、暴力、恐怖、ポピュリズム（「衆愚政治」、「扇動政治」、「反知性主義」）政治的無関心、人権に対する無知等が背景にあるとよく言われます。少なくとも、独裁者は近現代の民衆、政治に無知・無関心な大衆が生み出したものともいわれます。そのこともあり、卒業式の式次で、私は、「正しく学ぶことの大切さ」を送る言葉といたしました。今の危機は少なくとも約 30 年にわたるソ連崩壊後の世界政治の在り方が作り出したものといってもいいでしょう。同じことを人類は何度も繰り返しているのです。

では正しく学ぶとはどういうことでしょう。

今年度のスタートにあたり、私は、メタ認知能力を身につけてほしいということをお願いしました。それから、三つの宿題を出しています。

「なぜ、学ぶのか？なぜ、学ばなければならないのか？自分なりの答えを見つける」

「夢を持ち、一日一日を大切に積み重ね継続する」

「自分の命を大切にする」の三つです。まさに、このことに尽きるのです。

それから、２学期の終業式で、学ぶことに関連して「人権と校則」のお話をしました。

覚えていますか。生徒会の皆さんがしっかりと考えをまとめてくれたおかげで校則を少しだけ前進させることができました。具体的には生徒指導の規程改定です。皆さんにお配りしましたので一緒に確認しましょう。

※「生徒指導に関わる規程の改定について」を紹介する。

それから、来年度からは、性によらない名簿を採用することを宣言しました。今日の集会で皆さんに並んでもらったように。男子優先の考え方は捨て、出席簿等を変更します。

このような、人権に対する小さな積み重ね、認識を変えていくことが、差別をなくし、多様性を大切にする自由と民主主義を持続してゆくために必要なことなのです。

これからも校則ばかりでなく、いじめ問題も含めて自分の権利と他人の権利についてもっともっと深く学んでいきましょう。

新しい年度を皆さんと迎えられることが今から楽しみです。しっかりと準備して、新しい四月を迎えましょう。

令和４年３月２５日

青森県立七戸高等学校

校 長　森田　勝博